

この講座は SLTC の考え方に沿って進みます。



SLTCサイクルとは、小田昌敬が開発したPDCAをベースに柔軟性、ボトムアップ思考、合意形成を強化した業務進行プロセスです。

「Success（成功）」「Listing（行動書出し）」「Try(行動)・やってみる」「Check（振り返り・確認）」の4つ頭文字を取っています。

一般に普及しているPDCAサイクルに比べ、初めての取り組みや関係変化の激しい中での取り組みなど、個別ケアや新たなチャレンジなど、明確な正解をまだ持っていない業務に向いている考え方です。また、

PDCAが計画を主体に考えるのに対し、SLTCではゴールや成功状態を主体にしています。

クリティカルパス・クリニカルパスの考え方はPDCAに近いものと言えるでしょう。同じ手順を繰り返す、統一された看護を提供するうえでは強力なツールと言えます。反面、計画にこだわるあまり画一的、突発的な出来事への対応の遅れ、など副作用があると予想されます。柔軟な対応を求められる場面ではSLTCを、定型化できることを効率よく進めたい場面ではPDCAが向いています。

Success 成功状態	理想（達成された）状態を明確にする。 ・箇条書きでドンドン書き出す、多様な意見を受け入れる。
Listing 行動書出し	理想状態に近づくとと思われる行動をリスト化。 ・箇条書きでドンドン書き出す。ここでは選択・批判しない。
Try 行動	成功確率の高そうなものを選び、トライする。 ・自分たちの実力・負担を考慮する。範囲・対象の細分化をする。
Check 確認・振り返り	チェック（フィードバックを受け取る）。 ・発生した変化を把握する。その変化が成功状態もしくは成功状態の一部を満たしているかを確認する。

※ Sの状態になるまでL → T → Cを繰り返す。

<参考>PDCA

PDCAサイクル（PDCA cycle、plan-do-check-act cycle）は、事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。

Plan（計画）：従来の実績や将来の予測などをもとにして業務計画を作成する

Do（実施・実行）：計画に沿って業務を行う

Check（点検・評価）：業務の実施が計画に沿っているかどうかを確認する

Act（処置・改善）：実施が計画に沿っていない部分を調べて処置をする

A.目標チェックポイント

- 01 (誰に、何を、どのように、が分かる) 経営理念や行動理念などがある。
- 02 経営理念、行動理念は独自に作られたものである。
- 03 経営理念、行動理念が定着している (職員の8割が暗唱可能)。
- 04 経営理念、行動理念を判断基準として活用している。
- 05 事業所の理想状態・ゴールが8つの視点で網羅してある。
- 06 目標をビジュアル (絵や写真) でも表現している。
- 07 会議やミーティングの目標、目的が掲示されている。
- 08 行動目標は「やるべき」「できる」「やりたい」を満たしている。
- 09 個人目標 (ゴール設定) を be、do、have で表現できている。
- 10 会議や日常の場面で、目標が目に入ってくる仕組みになっている。

_____ 点

B. 情報共有チェックポイント

- 01 全員に情報がいきわたる経路が確保されている。
- 02 用語の解釈や意味が統一されている。
- 03 伝達の際「だろう」ではなく「かも」を前提としている。
- 04 共有すべき情報が目に入る仕組みがある。
- 05 共有すべき情報に複数回触れることができる環境になっている。
- 06 報連相がなぜ必要か説明できる (職員の8割)。
- 07 重要な情報は、なぜ重要であるか理由が説明されている。
- 08 「事実」と「意見」の違いを理解し、使い分けている。
- 09 報連相の場面が育成の場面であると理解している。
- 10 ルールや規則の前提条件と目的を説明できる。

_____ 点

C. 信頼関係チェックポイント

- 01 挨拶のスタンダード型がある。
- 02 役職の上下に関係なく、挨拶が行われている。
- 03 意見の違いを受け入れようとする空気、文化がある。
- 04 職員の個別ニーズ（ステージ）の把握をしている。
- 05 マイナス言葉よりプラス言葉の方が多い。
- 06 事実か意見かを確認している。
- 07 相談（確認）、連絡、報告の順で仕事が進められている。
- 08 採用中プロセス中に「ゆるせないこと」を確認している。
- 09 積極的（週一以上更新）に外部へ情報発信（たより、HP、ブログ、FBなど）をしている。
- 10 別法人との活動（交流会や研修など）に過半数以上の職員が参加している。

_____点

D. 育成チェックポイント

- 01 キャリアパスが整備されている。
- 02 新人研修カリキュラムがある。
- 03 採用前に「できるの4段階」を説明し、共通理解をしている。
- 04 「知っている」「できる」「やっている」で評価している。
- 05 定期的（4半期に一度以上）に個人面談を行っている。
- 06 職員の個別ニーズ（ステージ）に合わせた指導・声掛けが行われている。
- 07 成長した部分もフィードバックしている。
- 08 試用期間（または期間雇用）中に、面談などでポイントをまとめ、フィードバックしている。
- 09 会議やミーティングの目的と出席者がマッチしている。
- 10 内部研修は全員がもれなく受講している。

_____点

$$\square \times \square \times \square \times \square = \underline{\hspace{2cm}}$$

